

教祖140年祭
三年千日の
活動方針

「教祖のひながたを目標に
全教会心定めの達成」
めど

◇4月 教祖誕生祭・婦人会総会◇

1人でも多くの方をお誘いし、おぢばがえりさせて頂きましょう！
空港送迎などのご案内は5ページをご覧ください。

◇春の学生おぢばがえり◇

3月28日、本部中庭にて式典があります。
直屬アワー、お楽しみ行事なども予定していますので、
学生さんのお誘いよろしくお願い致します。

※対象：高校生、大学生、専門学校生



大教会のHP がご覧になれます！
月報には掲載されない写真もいっぱいです！
ぜひ一度ご覧下さい♪



発行所
天理教網走大教会
布教部出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227

大教会二月月次祭

大教会2月の月次祭は、12
日午前9時30分から大教会長
祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、親神様
の御守護に御礼申し上げた後、
「今月は、御本部より西川寿
一先生をお迎えし、学生層育
成者講習会を受講させて頂き、
ぢばの理を頂戴できますこと
心より御礼申し上げます。又、
一月は初席者一名の人の御守



西川寿一先生

2月12日祭典終了後、引き
続き参拝場にて「学生層育成
者講習会」が本部学生担当委
員会より西川寿一先生(泉大
教会・賑町分教会長)を迎え
開催された。
西川先生はご自身の生い立
ちを赤裸々にお話下され、そ

学生層育成者講習会

護を賜りましたこと厚く御礼
申し上げます。私共教会長を
始めようほく一同は、年祭活
動の大きな時旬にお見せ頂く
天災の節を、他人事ととらえ
ず我が事とし、昨年一年を振
り返り、ひながたを元に心を
正し、神一条の精神で通らせ
て頂く決意でございます。」
と奏上した。

じわじわと伝わると思えます。
若者の育成には同じ人が何
度も同じ事を言うよりも、
色々な人の言葉や考え方が必
要で、家族や教会はもちろん
お道全体で取り組まなければ
いけない事だと思います。
しかし、若者と一括りに
言っておりますが、色々な若
者がおられます。そして、若
者と言われる十代、二十代の
頃は、皆さま方も経験してい
る通り、多感な時期で、自我
が芽生えてきます。

の中で学生会活動に参加し、
ご自身の心を救って頂き、今
があるというお話をして下
さった。

理屈をこねて物事を斜めか
ら見たり、反抗的に見たりす
る面もあるかと思えば、逆に
とても素直な面も持ち合わせ
ていて、この時期の出会いや
出来事が、後々の人生に大き
な影響を与えるという事もた
くさんあります。

◆若者の育成とは

若者の育成というのは、決
まった人だけがすれば良いと
か、行事に参加すれば育成で
きるというような単純な事では
なく、色々な人や場面を通
して、また、様々な角度から
言葉や心をかけてもらう事に
よって、お道の人の温もりが
伝わり、信仰のありがたさが

そんな若者が周りからはど
んな風な見られ方をするかと
いうと「もう子供じゃないん
だからちゃんとしなさい」と
言われたらと思つたら「まだ子
供なんだからそんな事はせん
でもいい」と言われたり、自
分の心と体も子供から大人に
成長する狭間で揺れ動いてい
るのに、周りからの見られ方

もあやふやで、とても不安定で色々な事に悩んだりする危なっかしい時期でもあります。この未熟で不安定な時期に自分の人生や将来にとって何が必要で何が不要かを選択します。その選択の時に、おつとめやひのきしんという信仰的な時間、教会やお道の行事という信仰的な空間、そして、青年会や女子青年、学生会の仲間といった信仰的な繋がりが、必要なものとして残るのか、不要なものとして削られてしまうのか。この学生の時期は、信仰が伝わるかどうか、人生の大きな分かれ道だと思います。

この時までには、若者たちの心の中に、魅力的な信仰者の姿や、自分の意志で掴んだ信仰する意味や喜びがなければ、仕事をして社会に出て、経済的にも社会的にも自立し、自由が増え、今まで届いていた教会や各会からの言葉や誘いが届きにくくなり、どんどん信仰から離れてしまうように思います。

信仰と向き合って、お道の教えを自然と好きになれる素晴らしい場所だと思います。学生や若者の育成を、教会や、教会長の丹精、また、それぞれの家庭で出来れば一番いいのではないかと、それはそんなに簡単な事ではないと思います。私が学生の時に一緒に学生会をしていった仲間の中にも、家庭や学校に居場所がなくて荒れていた子が、学生会で自分の居場所を見つけて、まっとうに生きるようになったり、引きこもりがちだった子が、学生会で自分の良い所に気付いて外に出れるようになったり、学校やバイトの友達とは違い、家族にも言えない事を正直に言い合えるお道の仲間、そして、どんな事でも受け入れてくれる学生会の雰囲気、心を守られ、大きく人生を変えてもらったという人がたくさんいます。

頃は月次祭に来てくれる信者さんは、片手で数えるぐらいしかいませんでした。私の両親はどんな人かと言うと、母はとても信仰熱心で、まさに大阪のおばちゃんといった感じですが、会長だった父は、私が中学生の頃から、お酒に溺れるようになりました。教会の事は一切しない。朝夕のおつとめはもちろん、教会で一番大切な月次祭の時すら、お酒を飲んで教会にいないという状況になりました。毎日のようにお酒を飲んで暴れたり、母と大声で言い合いをしてつかみ合いのケンカをしたり、ケンカがエスカレートした時には包丁を出してきたり、お酒を飲むためにサラ金から借金をしたり、時には、家に帰ってきたら血を吐いて部屋の中が血の海になっていったという事もありました。

私は五人兄弟で、上に姉が二人いますが、一番上の姉が一番心にダメージを受けたように思います。高校を中退し、家にひきこもってしまいました。そして、姉は感情を自分での元一日です。教祖は、「救けて頂いたこの御恩をどうして返したらいいですか?」と尋ねられた方に、「人を救けるのやで、あなたの救かったことを、人さんに真剣に話さして頂くのやで」と教えて下さったので、ここまでは、私の信仰の背景と、学生会で私が救けてもらった話を真剣にさせて頂きました。

コントロール出来なくなり、一度感情が高ぶると、大声を出して父とつかみ合いのケンカをしたり、そこら辺にある物を投げたり壊したりして暴れるようになりました。姉が父に掴みかかって「お前がいるからこの家がめちゃくちゃなんや」とヒステリックに叫ぶ声と、酔っ払って暴れている父の姿が今でも目に焼き付いています。朝から晩までお酒を飲んで暴れる父と、狂ったように暴れる姉に挟まれて、この時の私の心は本当にボロボロになっていました。天理教の教会という事で、貧しいながらも、家族が和気あいあいと陽気に暮らしていたら、何とか自分を保つ事はできたと思いますが、経済的な苦勞をし、酒に溺れる父と、御用に走り回る母で、親ともともに会話する事もなく、天理教を信仰しているのに、両親、親子、兄弟の関係はボロボロで、むしろ、こんなにも自分が不幸なのは家が天理教の教会のせいだと思っていました。この時は、毎日酔っ払った父の姿と、狂ったように暴れる姉の姿を見ながら、何の希望もない毎日と、その中で何もできない無力な自分、そして、そんな境遇を生きなければいけない自分の運命を呪いながら、毎晩布団の中で涙を流していました。

中学を卒業して天理にある親里高校に入学して、寮生活をすることで地獄のような生活から一時的に抜け出す事ができました。周りのみんなも天理教の人ばかりで、天理教に対するコンプレックスを感じる事も無く、家にいる時よりもリラックスした生活を送る事ができました。

いった喜びに近い感情でした。一緒に来ていた引率の先生は、今すぐ日本に帰る飛行機を手配する事もできると言ってくれましたが、折角アメリカまで来ているのに、なんで父の葬式のために帰らなアカンねんと思つて、アメリカに残ると言いました。その時のことと自分絶望した事と、父親の葬式に出ないという親不幸をした事が、今でも重たい重りのように自分の心の中に残っています。

そんな冷めた自分と付き合いながら高校を卒業して、本当に何となく天理大学に進学しました。その時に、大きな人生の転機を迎えました。不思議な縁で大阪教区の学生会に参加するようになりました。最初は可愛い女の子がいるという不純な動機でしたが、何回か行事に参加するうちに、だんだんとこの学生会という場所は、そんな軽い場所ではないなと思うようになり、自分と同じ大学生や、自分よりも年下の高校生が、とても楽しくそうに信仰しててまぶしく感じました。

この二十歳の時が自分の傷だらけで冷めきった心を教祖に救けて頂き、そして、学生会にももちろん、自分の事ですらどうでもいいと思っていた心から、教祖のように、人を救ける心になりたいと自ら進んでこの教えを信仰しようと思つた、本当の意味での信仰

の輪の中に入っている事がとても心地よくて、いつの間にか、自然と仲間と笑い合ったり、誰かに喜んでもらうために努力したり、そして、不思議な事に、身上的友達の救かりを願つて真剣に一人でおつとめをしている自分がいました。自分の乾いた心が少しずつ潤つていくのを自分でも感じました。

私が子が授かれば、こんな事もしてやろう、自分が母になればこんな言葉をかけてやろう、こんな心をかけてやろうと、色々と思つたと思います。そんな思い描いた我が子よりも、教会にやってくる他人の若者を大切に育ててやってくれと仰つたのです。普通では中々できない事です。その普通では中々できない事が、御用ならできます。御用は一見したら、会議や用事が増えて大変という見方もあるかもしれませんが、むしろ逆に、御用じゃなければよって成人させて頂き、簡単には取れない癖・性分を取って頂き、御用によつて救けて頂いていると思います。特にこの育成の御用は本当にありがたい御用だと思います。

◆真実の声掛け
若者が楽しく信仰に触れる事ができて、育成とおたすけの現場である学生会ですが、どれだけ楽しく魅力的な行事や集まりを企画しても、そこに学生や若者が来てくれないと始まりません。私は先にもお話した通り、学生会で運命

この二十歳の時が自分の傷だらけで冷めきった心を教祖に救けて頂き、そして、学生会にももちろん、自分の事ですらどうでもいいと思っていた心から、教祖のように、人を救ける心になりたいと自ら進んでこの教えを信仰しようと思つた、本当の意味での信仰

の元一日です。教祖は、「救けて頂いたこの御恩をどうして返したらいいですか?」と尋ねられた方に、「人を救けるのやで、あなたの救かったことを、人さんに真剣に話さして頂くのやで」と教えて下さったので、ここまでは、私の信仰の背景と、学生会で私が救けてもらった話を真剣にさせて頂きました。

◆育成の御用がたさ
明治二十六年六月十九日の平野トラさん、郡山初代会長・平野権蔵先生の奥様の身上に對するおさしづに、「若い者寄り来る厄厄介、世界から見れば厄介。なれど道から厄介ではない。道から十分大切。(中略)年の行かん者我子より大切、そうしたなら、世界からどういう大きい事になるやら知らん。すれば、そんなら何が間違うてある。日々という、言葉一つという、これ聞き分けてくれるよう。」と、親神様も年の若い者は厄介だろうと仰つております。厄介だと思つたのを分かつた上で、そんな厄介な若者を、我が子よりも大切に思つて育

ててくれ、そうしたならどれだけ大きいご守護の姿になるか分からないと仰つて下さっています。そして、そんな若者には、言葉一つが大切、どんな言葉をかけるかで、お道が好きという心にもなるし、不足の心が育ち教会なんか嫌だ、という風にもなつていくと教えて下さっています。教会や会活動における若者の育成は、人の子も我が子のように思つて心をおさしづは、育成の大切さを伝えるのによく引用されるおさしづですが、今回は折角ですので、このおさしづをもう少しだけ掘り下げたいと思います。

実は、平野トラさんには、実の子供はありませんでした。きつと子供が授かる事を望んだでしようし、また、子供がでない事で色々悩み苦しんだと思います。その実子のなかつたトラさんに対して親神様は、教会に来る若者を自分の子供以上に大切にしてくれと仰つたのです。トラさんは自分の子供が授かる事を願つてやまなかつたと思います。

◆真実の声掛け
若者が楽しく信仰に触れる事ができて、育成とおたすけの現場である学生会ですが、どれだけ楽しく魅力的な行事や集まりを企画しても、そこに学生や若者が来てくれないと始まりません。私は先にもお話した通り、学生会で運命

お話し勉強



美幌分教会 清水信喜会長

大教会の神殿講話は、現在、役員・准役員でつとめさせて頂いていますが、この年祭活動の期間に、ぜひ他の会長、また会長夫人にもお話を勉強して頂くとうと、二月からスタートいたしました。毎月ではありませんが、これから掲載していきたいと思っております。「教祖」と聞いて、まず思うことは、あまりに偉大すぎる存在なので、只々恐れ多いというような感覚です。信仰熱心な人がよく使われる、「教祖を身近に感じる」だとか、「教祖がいつもお側について下さる」などという感覚になった記憶は一度もありません。あまりいいお話もできませんので、私が四十年程前に、青年づとめをして頂いた時に聞

親の教えを届かせる大切なポイントの一つは、この“真実の声掛け”だと思います。行事のお誘いの声掛けだけではなく、普段から若い子に声を掛けて、電話をしたり、足を運んだり、共に時間を過ごし、心を尽くす。今期の本部の学担の活動方針に掲げている、「学生のために使う時間を増やそう」これに尽きるなと思えます。

◆育成の夢

私の思う育成の理想は、お道の教え、つとめとさづけで、医者でも助からない、福祉や法律でも助からない、家族からも見放されたような、お道でしか救われない人の心が変わり、運命が変わって救われる姿を目の当たりにしてもらいたい事だと思っています。

私の教会でも、私が信仰しようと思った二十年前は、月次祭を、当時会長の母と私の二人だけでつとめるという月もありました。しかし、二十年経った今、多い時は二十人以上でつとめさせて頂く事もあり、本当にありがたい姿を見せて頂いております。元々は全くこの教えを知ら

を救ってもらいました。そのきっかけ、始まりは声掛けです。つまり、私を誘ってくれた人がいるという事です。誰かに声を掛けてもらって、誰かに誘われて参加したという人がほとんどだと思います。この声を掛けるという行為なくしては、行事や会活動に参加してくれる人が増えるという事は無いと思えます。しかも、ただの声掛けではなく、心からこの行事に参加してもらいたい、あなたに来てほしいという、思いのこもった真実の声掛けです。

私もその真実の声掛けの陰で二十年以上前に学生会に参加しました。初めて参加した学生会の行事は、三月二十八日に本部の中庭で開催される春の学生おぢばがえりです。二月に高校を卒業して、先輩や支部の学生会の人が、何度か電話や教会にも来て春学のお誘いをしてくれましたが、私は全て断っていました。高校を卒業して、周りの同級生がみんな車の免許を取りに行っていたので、私も免許を取りたいと思い、大学入学までの間に免許を取りに行かせ

て頂きました。順調に教習をこなして、このままスムーズにいけば大学が始まるまでに免許取れるな一と思っていたら、まさかの仮免の試験に落ちてしまい、次の試験は一週間後になりま

またかと思つて、例のごとく免許で忙しいと断ろうとしたのですが、何と、次の仮免の試験までの空白の一週間の間に、ちょうど春学の期間が入っていて、強く断れなくなつてしまいました。断る理由がなくなつてしまい、不思議な事に、私は春学に参加する事になりました。何とか一人でも多くの学生とおぢばに帰りたい、という真実の重ねてのお誘いのおかげで、私は学生会に繋がりが、ポロポロだった心を救ってもらい、自ら求めて信仰する喜びを知る事ができました。今でもあの電話がなければ自分の運命はどうなっていたらるかと思えます。

かせて頂いたお話を二つ紹介させて頂きます。一つ目は、五代会長様からお聞かせ頂いたお話で、当時はまだ大教会に陸級する前で、網走分教会創立七十周年に向かつて、皆が一手一つになつて進んでいく真つ最中でありました。

十七ヶ所の教会設立という心定めもあり、朝から晩までひのきしんの毎日でした。私にはよほど嫌々やっているように見えたのか、五代会長様は「なあ信喜、人から持たされた荷物重い。自分から持つ荷物は軽い。よく言うだろ！」それから更に、「どうせ同じ事をやらなきゃならぬのなら、嫌々するのと、自分から進んでやるのと、どちらが良いか位は考えなくても分かるだろ。」とお話下さいました。

五代会長様は、ひのきしんに臨む姿勢について、「喜んで」という言葉を使わずに、「自ずから進んで」という言葉遣われしました。「喜んで」と「進んで」の違いは何かと考えますと、ひのきしんを臨む姿勢にも段階があるのではないかと思えます。

一つ目は、ただ言われた通りのひのきしんをする姿勢

二つ目は、ひのきしんが終ったあとに、まださせて頂くひのきしんはありますか？と人に聞く姿勢。こちらはやや積極性が足りません。続いて、三つ目は、二つ目と同じような内容ですが、人に聞くのではなく、まだ何かできるひのきしんは無いかと、自分から進んで探す姿勢。こちらは少し積極性を感じます。最後に四つ目は、親神様からお借りしている身上を、使わせて頂ける事に喜びを感じ、感謝の気持ちを行動で示すという姿勢です。

ひのきしん一つにしても、教祖にお喜び頂ける、物の見方、考え方、行動の仕方などを、改めて教えて頂いたと思えます。もう一つは、三幣博明先生から聞かせて頂いたお話で、ある時、私に、「五木寛之について作家知っているか？」とお尋ねになり、最近その五木寛之が、「幸福論」という本を出版し、読んでみたら興味深く、参考になる本だったからと、要旨をかいつまんで

教えて下さいました。五木寛之が四十歳位になつた頃に、体調が優れず、何をやっても面白くない、やる気が出ないという状態になつたそうです。一向に良くなる気配もなく、例えば悪いが、男の自分が、まるで女性の更年期障害になつてしまったような感覚になつたそうです。

さすがにこのままではダメだと考え、どうせ書くなら、「良かった事」「嬉しかった事」「喜べた事」だけを書く、名付けて「幸せ感じノート」を作つて書いてみようと思つたそうです。しかし、毎日面白くない日々を送ってきた作者にとつても、いざ書いてみようと思つても、毎日空欄の日が続いたそうです。たまに書いてみれば、「今日はネクタイが一回で結べた」や、「電車を待たずに乗れた」などと、とりとめのない事ばかりだったそうです。嬉しかった事を探しているうちに、今まで喜ばなかった事も、良かった、嬉しかったと思える日が増えていき、あつという間に、書ききれない位に「幸せ感じノート」がいっぱいになっていったそうです。

気付いてみれば、更年期障害のようなものも治り、仕事への意欲が湧いてきたというお話でした。博明先生は、教祖にお喜び頂くためには、物の見方、考え方、心の向く方向などを、五木寛之の話を聞いて、分かりやすく教えて下されたのだと思えます。この二つのお話を今一度勉強させて頂いたので、年祭活動で遅れをとっている私ですが、せめて考え方だけでも前を向いて、残りの年祭活動期間を勇んで頑張ろうと思えます。

立教187年人のご守護 心定め table with columns: 初席者, ようぼく, 修養科修了者, 教人 and rows for current and previous periods.

在原政三様お出直し



鉦厚分教会(厚岸郡厚岸町)五代会長・在原政三さんが、2月6日出直された。92歳。在原さんは、昭和8年1月

22日、厚岸生まれ。昭和26年3月厚岸水産高校を卒業。昭和32年満子さんと結婚され、二男一女を授かった。平成10年7月、鉦厚分教会五代会長に就任。平成13年7月に代を譲り、晩年は網走大教会に住み込んだ。葬儀は2月9日みたまうつしが、翌10日告別式が網走ベールコ会館にて、三幣正志大教会役員齋主のもと執行された。

お知らせ

4月18日教祖誕生祭、翌19日婦人会総会に向け、団参加組まれます。

【日程】

◎4月16日～20日

【飛行機】

◎16日、17日 新千歳空港14時05分発(ピーチ便)

◎20日 関西空港9時05分発(ピーチ便)

【空港送迎】

◎16日、17日 関西空港17時頃出発予定

◎20日 詰所6時頃出発予定

◎ピーチ便以外でもバスの出発時間に都合がつく方は一緒に乗り下さい。

【その他】

◎網走大教会から新千歳空港までの送迎も予定しておりますので、詳細は各教会へお尋ね下さい。



動 静

年 祭

▼直轄所属・紺野真理子の霊様の5年祭が2月11日、東京都葛飾区の自宅にて瀬川とく江祭主のもと執行された。

納骨式

▼直轄所属・鈴木春雄の霊様の納骨式が2月3日、豊田山舎にて藤山重善・大教会役員祭主のもと執行された。

2月人のご守護

○修養科志願者 (1名)

東 網 石 山 康 子

○をびや許し願 (2名)

育英会寄付者

在原建城様(父葬儀)

松崎勇二様(母一年祭)

鈴木徹様(父納骨式)

品格おめでとう

▼天理高校1部

直 轄 瀬 川 つぐみ
女 満 別 三 幣 公 信

大教会2月の動き

1日 役員会会議

2日 みそか会

3日 お話会。節分行事

4日 大教会創立の日。縦の伝道日

8日 直轄世話人会

9日 網走支部例会会場役員会議

10日 教祖140年祭網走おたすけ委員会会議。育成部部会

11日 月次祭。学生層育成者講習会。役員会会議。連絡会

12日 教会長夫妻練り合い。修養科事前研修会網走よろこびセミナー(15日まで)

13日 農家御礼の会。支部婦人会例会会場

17日 会長、札幌方面直轄信者まわり。(20日まで)。縦の伝道日

23日 会長、おちばがえり詰所23会

24日 会長、本部神殿奉仕つとめる

25日 会長、本部災救隊会議出席。縦の伝道日

26日 本部月次祭遙拝。会長、教区祭実行委員会会議、その他会議出席。結城和広役員、本部神殿奉仕つとめる

27日 会長、かなめ会出席。藤山重善役員、本部神殿奉仕つとめる

28日 会長、災救隊出動。石川県能登半島(3月7日まで)

29日 大教会一斉活動日。みそか会

立教187(令和6)年人のご守護成果表 (2月末現在)

Table with columns for church names, initial, middle, and final results, and total counts for members and participants.

2月 月次祭 2/12(月)

Table detailing the 2nd month monthly festival (2/12) with columns for participants, roles, and specific activities.